

古屋哲夫の足跡

元京都大学人文科学研究所教授

『帝国議会誌』第12巻

1976年6月

第六一回帝国議会 貴族院・衆議院解説

古屋 哲夫

[第六一回帝国議会 貴族院解説](#)

第六一回帝国議会 衆議院解説

第六一回帝国議会 衆議院解説

[血盟団事件](#)

[第一八回総選挙](#)

[第六一回議会の召集](#)

[内閣改造問題](#)

[衆議院の状況](#)

第六一回帝国議会 衆議院解説

血盟団事件

第60回議会在解散されて選挙戦が展開されているさなかには、上海事変（「第六一回帝国議会貴族院解説」参照）やハルビン占領作戦など国民の関心を惹きつけるような戦闘が行われており、従って選挙気分はもう1つ盛り上がり上がらなかった。しかもそのうえ、政党政治そのものを否定しようとする勢力によるテロ行為まであらわれ、選挙戦は一層かくらんされる結果となった。井上準之助暗殺により第1弾が放たれた血盟団事件がそれである。

2月8日午後8時少し前、民政党公認・駒井重次候補の応援演説のため、会場の本郷・駒本小学校に車を乗りつけた井上準之助は、降りて5、6歩あるき出した時、出迎えの群衆のなかから躍り出た小沼正にピストル3発を打ち込まれた。彼はすぐさま東大病院に運ばれたがすでに絶命しており、ほとんど即死同様であったという。井上

は浜口・若槻内閣の蔵相として金解禁政策の推進者であったが、今回の総選挙にあたっては、民政党選挙委員長として選挙資金の調達に、選挙運動の指導にと奔走していたところであった。

警察側はこの事件の背後関係を追及したが、血盟団の存在をつかみえないうちに、3月5日午前11時半、今度は三井銀行玄関前で三井合名理事長・団琢磨が菱沼五郎によって暗殺されるという事件が起こった。そしてここではじめて、小沼・菱沼が同郷（茨城県）であり、その郷里において井上日召・古内栄司らの指導をうけていたことが明らかとなり、血盟団の存在が浮かび上がってくるようになった。

血盟団と呼ばれたのは（彼等自身がそう名乗ったわけではない）、井上日召を中心にした集まりであり、彼が茨城県大洗の海岸にある護国堂（日蓮宗系の寺）に在住していた時期（昭和3年暮から昭和5年10月）から次第に形成されていたものであった。青年時代大陸浪人的生活を送った井上は、大正9年末に帰国してからは、右翼的な国家改造を志向するようになり、護国堂に入るやまず付近の小学校の先生で人生問題に悩んでいた古内栄司に彼の信念を吹き込んで同志とし、さらに古内を通じて小沼正・菱沼五郎・黒沢大二・川崎長光らに強い影響をあたえていった。しかし彼は最初から非合法手段による国家改造を考えていたわけではなかった。彼が次第に非法主義に傾いていったのは、海軍青年将校との接触によるものであり、そのきっかけは昭和5年1月頃、霞ヶ浦航空隊に居た海軍側青年将校運動のリーダー・藤井斉と知り合ってからであった。この昭和5年と言う年は、右翼・軍部がロンドン海軍軍縮条約反対運動のなかで結束を深めていった年であり、そのなかで桜会にみられるような武力クーデターの思想も広まりつつあった（「第五九回帝国議会衆議院解説」参照）。すでに古内らの農村青年グループと藤井らの海軍青年将校グループとを結びつける立場に立っていた井上は、こうした状況のなかで、昭和5年10月上京し、「国家革新」運動の渦中にとび込んでゆくことになる。

上京した井上はまず、安岡正篤の金鶏学院に止宿、そこで四元義隆・池袋正釰郎らの学生と接触、久木田祐弘・須田太郎・田中邦雄らを加えた学生グループを新たな同志として獲得することができた。こうして、茨城の農村青年と東京の学生グループという2つの集団を傘下におさめた井上は、民間急進派のリーダーに成長してゆくことになり、また藤井を通じて、西田税及びその影響下にある陸軍青年将校とも連絡をもつことになる。昭和5年暮頃から西田（陸軍）・藤井（海軍）・井上（民間）という三派の提携が深められ、井上も橋本欣五郎らの企画した軍事クーデター計画（10月事件）に参加してゆくことになるが、その過程で井上はすでに要人暗殺の方向に傾いていったとみられる。10月事件が未然に発覚して失敗に終わったのちも、井上はさきの三派の提携による独白の運動の展開を主張したが、荒木新陸相の登場に期待をかけた陸軍青年将校側は非合法運動に消極的と

なり、ここから陸軍側と分かれた海軍側及び井上一派により、血盟団事件、5・15事件が起こされることになった。

昭和7年1月9日、代々木上原の榎藤成卿が管理する空屋で、古賀清志ら海軍青年将校と、井上日召・古内栄司・四元義隆らが会合、ここで2月11日の紀元節を期して財界政界特権階級の巨頭を暗殺するという方針が決定された。しかし1月28日に上海事変が勃発し藤井以下の海軍青年将校らが出征することとなったため、予定は変更され、議会解散10日後の1月31日、前記榎藤空家で再び聞かれた会合では、海軍側と民間側を2分し、まず井上一派が第1陣として1人一殺による暗殺を実行する、つづいて第2陣として海軍青年将校が蹶起するという新しい計画がたてられた。小沼・菱沼による井上・団暗殺はこの第1陣の実行であった。

小沼・菱沼の取調べにより、農民・学生両グループよりなる井上一派＝血盟団の存在が明らかにされ、頭山秀三（頭山満の三男）の経営する天行会道場2階に潜伏していた井上日召も、3月11日警視庁に自首した。しかしこの1人一殺による血盟団事件が計画の第1陣であることは明らかにされず、次の第2陣としての5・15事件を予防することは出来なかった。

第一八回総選挙

血盟団事件に脅かされながら進められた選挙戦では、最初から政友会有利が予想されていた。不況に悩まされている民衆の間には、政友会の積極政策に期待する気分が強かったし、また満州事変によって民政党が看板政策としてきた幣原外交路線が崩壊してしまったことも民政党に痛手であった。政友・民政ともに満州事変積極支持という点では変わりがなくなっていた。従って両党は経済政策の相違を強調しようとし、政友会は、無謀な金解禁と消極政策が不況を招いたと民政党を攻撃し、産業5ヶ年計画樹立のスローガンを掲げて、積極＝インフレ政策の方向を示した。これに対して、民政党は、政友会は金輸出再禁止により財閥に不当な利益を与えたと非難し、産業の統制・合理化をすすめて、金本位制を再建することを主張した。

しかし不況は選挙戦そのものにも大きな影響を及ぼしており、選挙資金調達の高コストから立候補の出足は悪く、届出2日目ですら定員数をこえるという有様であった。結局立候補者は前回総選挙より100名以上も少なく、また定員一ぱいの立候補で無投票当選の選挙区が増加したこともこの選挙の特色であった（後掲、当選者一覧表参照）。そしてこうした少数激戦の様相は、二大政党対立の傾向を強める要因ともなっていた。大正12年

以来、実業同志会→国民同志会をひきいて活躍してきた武藤山治が、議会解散直後に立候補断念を声明、1月24日の国民同志会役員大会で同会解消が決定されたことは小政党が発展する可能性のなくなってきたことを象徴するものであった。同じことは無産政党についても言えた。無産政党立候補者も、前回の101名から36名へと激減、またかつては「輝やける委員長」として人気を集めていた大山郁夫も、この選挙には立候補しなかったばかりでなく、第61回議会召集の前日、3月17日にはアメリカに向け出発し、以後第二次大戦後まで日本にもどらなかった。こうしたきびしい情勢の下でも、無産政党間の選挙協定は成立せず、とくに東京第5区では社会民衆党から松岡駒吉、全国労農大衆党から麻生久、その上さらに労大党を脱党した加藤勘十という3人の有力候補者が対立するという事態さえあらわれた。結局、15,786票をとった麻生も次点で落選したが、加藤の10,028票、松岡の6,565票をみれば、候補者を1人にしなれば当選の可能性のある選挙区であった。

無産政党間の対立はむしろ激化していると言ってもよかった。隣の東京第4区では、労大党候補者浅沼稲次郎の支持者約40名が、社民党候補者馬島側の選挙事務所に殴り込みをかけるという事件が2月18日におこっている。事のねこりは馬島側が浅沼は満州事変に反対しているというビラをまいたことであったが、事変に対する態度は両党のちがいを示す最も大きな問題となっていた。社民党は「満蒙の權益を民衆の手へ」とのスローガンによって満州事変を支持したが、労大党は「帝国主義戦争絶対反対」を選挙スローガンに加えていた。しかし同党内でも東京第6区から当選した松谷与二郎のように、満州事変を支持し、国家社会主義の方向に歩んでいた者もあったが、同党候補者の多くはまだ事変への批判的態度を保っていた。官憲側の報告も「満蒙問題二関シテハ同党ノ候補者中松谷与二郎・三宅正一ヲ除キテハ何レモ『帝国主義戦争絶対反対』ノ立場ヨリ「対支出兵絶対反対、対支内政干渉反対」ニ言及シタルタメ、言論ノ中止ヲ命ゼラレタルモノ多ク」と記している（内務省警保局「社会運動ノ状況・昭和七年」775頁）。

普選施行後三回ニ互ル無産政党ノ得票数比較				
(施行年月)	候補者数	当選者数	無産派得票総数	同左1人当平均得票数
第一回(昭和3年2月)	88	8	489,753	5,502
第二回(昭和5年2月)	101	5	524,018	5,188
第三回(昭和7年2月)	36	5	291,349	8,093

結局この選挙での無産政党の成績は、社民党が安部磯雄・亀井貫一郎・小池四郎の3名、労大党が松谷与二郎・杉山元治郎の2名、計5名を当選させたにとどまったが、次の9名が次点にくい込んでいた。

社民党	——	東京6区・鈴木文治、大阪3区・西尾末広、神奈川2区・片山哲、鹿児島3区・山元亀次郎
労大党	——	東京5区・麻生久、大阪1区・田万清臣、神奈川1区・金井芳次、兵庫1区・河上丈太郎、岩手2区・泉国三郎

また過去2回の普通選挙とくらべると、得票数は別表のように動いていた（前掲「社会運動の状況」）。政党別では次の通りである。

社民	——	立候補16名	125,758票
労大	——	立候補13名	134,364票
其他	——	立候補 7名	31,227票

このうち、「其他」のなかには、共産党が立てた候補者もまざっていた。例えば選挙戦の最中に東京5区の吉田由市候補が治安維持法違反で検挙されたが、それは同候補が共産党の決定で立候補したことを理由とするものであった。昭和5年7月田中清玄を中心とした中央部が検挙されて壊滅状態となった共産党は、昭和6年1月に至って、風間丈吉らによって再建されており、この選挙では主として獄中の幹部を候補者として宣伝を行う方針をとっていた。東京の場合でみると、第3区佐野学、第4区唐沢清八、第5区吉田由市、第6区杉浦啓一を候補者と決定したが、吉田が正式に立候補したほかは、立候補届けを提出せず獄中からの立候補挨拶状を配布する方法がとられていた。

投票日が近づくに従って、政友会の優勢は動かし難いと予想されたが、誰も300名をこえる圧勝は考えていなかった。例えば東京朝日は政友204、民政146は確実、残り107の議席が接戦になるとみており（東朝、2・19）、また内務省では与党政友会の当選者数を240～260の間と予想していたという（東側、2・15）。血盟団事件で井上準之助を失った民政党は、町田忠治を後任の選挙委員長としたが、財界に対する声望は井上には及ばず、選挙資金の調達が困難になったのではないかとみられていた。2月20日が投票日であったが、開票第1日目から政友会の予想を上まわる勝利が明らかとなった。政友会が290名をこえるか、民政党が160名を維持できるかが、第1日目の開票結果からみた関心の焦点となったが、政友303、民政144という最終結果には両党ともに驚かされていた。当選者及び得票数は次の通りであった。

第18回総選挙当選者一覧表（昭和7年2月20日施行）

選挙区名の下に数字は有権者総数

	得票数	党派	新旧前	候補者氏名
東京一区	100,403			
	12,592	政友	前	立川 太郎
	11,848	民政	新	高橋 義次
	11,402	民政	前	三木 武吉
	10,865	民政	前	本田 義成
	10,769	民政	新	大神田 軍治
東京二区	102,904			
	16,170	政友	前	犬養 健
	16,038	民政	新	駒井 重次
	14,705	政友	前	鳩山 一郎
	11,882	社民	旧	安倍 磯雄
	8,742	民政	前	中島 弥団次
東京三区	90,358			
	14,955	政友	前	安藤 正純
	13,827	政友	旧	伊藤 仁太郎
	12,062	民政	前	頼母木 桂吉
	10,024	民政	新	柳田 宗一郎
東京四区	83,801			
	11,813	政友	旧	磯部 尚
	10,460	政友	旧	国枝 捨次郎
	6,966	中立	新	朴 春琴
	6,599	政友	新	中野 勇治郎
東京五区	262,072			
	45,022	政友	新	三上 英雄
	36,623	政友	前	牧野 賤男
	30,125	民政	前	鈴木 富士弥
	29,189	民政	前	高木 正年
	19,038	民政	前	斯波 貞吉
東京六区	284,870			
	50,079	政友	前	前田 米蔵
	43,760	政友	前	中島 守利
	33,792	民政	前	中村 継男
	33,596	民政	前	佐藤 正
	19,319	労大	前	松谷 与二郎
東京七区	80,590			
	19,447	政友	前	津雲 国利

	17,733	民政	前	八並	武治
	14,607	政友	前	坂本	一角
京都一区	158,106				
	13,595	民政	新	中村	三之丞
	13,135	政友	前	鈴木	吉之助
	13,086	政友	前	鷺野	米太郎
	12,811	民政	新	川橋	豊治郎
	10,443	中立	新	福田	関次郎
京都二区	88,165				
	25,257	政友	新	中野	種一郎
	16,393	政友	前	磯部	清吉
	14,024	民政	前	田中	祐四郎
京都三区	73,560				
	13,987	政友	旧	長田	桃蔵
	13,942	政友	新	芦田	均
	12,992	政友	前	水島	彦一郎
大阪一区	104,428				
	23,243	政友	旧	板野	友造
	15,105	民政	前	市松	定吉
	11,200	民政	前	枅谷	寅吉
大阪二区	73,025				
	18,671	政友	旧	山本	芳治
	13,459	民政	前	竹田	儀一
	10,524	政友	旧	沼田	嘉一郎
大阪三区	108,536				
	15,040	政友	前	上田	孝吉
	14,043	民政	新	内藤	正剛
	13,462	民政	前	広瀬	徳蔵
	11,371	政友	新	青田	勝晴
大阪四区	204,570				
	19,643	政友	前	森田	政義
	17,316	民政	新	中山	福蔵
	15,800	民政	前	本田	弥市郎
	14,882	民政	前	吉川	吉郎兵衛
大阪五区	133,500				
	21,777	政友	前	喜多	孝治
	18,848	民政	前	勝田	永吉

	18,510	労大	新	杉山	元治郎
	17,074	政友	旧	岩崎	幸治郎
大阪六区	91,983				
	(無投票)	政友	前	山口	義一
	(同)	民政	旧	松田	竹千代
	(同)	政友	旧	井坂	豊光
神奈川一区	128,193				
	32,053	政友	前	野方	次郎
	26,079	民政	前	戸井	嘉作
	16,487	民政	前	三宅	磐
神奈川二区	98,261				
	20,536	政友	前	川口	義久
	19,666	政友	新	鈴木	喜三郎
	15,211	民政	前	小泉	又次郎
	9,865	民政	旧	岩切	重雄
神奈川三区	101,366				
	20,597	政友	前	胎中	楠右衛門
	18,367	政友	前	鈴木	英雄
	16,926	政友	新	河野	一郎
	15,277	民政	前	平川	松太郎
兵庫一区	161,557				
	22,172	政友	前	砂田	重政
	20,495	民政	前	野田	文一郎
	20,198	政友	旧	中井	一夫
	16,807	民政	前	浜野	徹太郎
	14,366	民政	前	中	亥歳男
兵庫二区	128,889				
	22,057	政友	旧	蔭山	貞吉
	21,698	政友	新	立川	平
	18,398	民政	前	前田	房之助
	13,920	民政	新	原	淳一郎
兵庫三区	92,890				
	24,497	政友	新	小林	絹治
	19,589	政友	前	多木	久米次郎
	16,282	政友	旧	青木	雷三郎
兵庫四区	101,050				
	18,756	政友	前	原	惣兵衛

兵庫五区	15,860	民政	前	田中	武雄
	15,068	政友	前	土井	権大
	12,999	革新	前	清瀬	一郎
	81,629				
長崎一区	19,307	政友	前	若宮	貞夫
	16,689	民政	前	斎藤	隆雄
	12,829	政友	新	畑	七右衛門
	139,498				
長崎二区	29,244	政友	前	西岡	竹次郎
	25,653	政友	前	向井	倭雄
	19,319	政友	前	志波	安一郎
	14,069	民政	新	中村	不二男
新潟一区	13,065	民政	新	中川	観秀
	104,777				
	19,871	政友	旧	森	肇
	17,745	民政	前	牧山	耕蔵
新潟二区	15,209	政友	前	佐保	畢雄
	14,236	民政	新	中田	正輔
	77,296				
	(無投票)	政友	前	田辺	熊一
新潟三区	(同)	政友	旧	山本	悌二郎
	(同)	民政	旧	山田	助作
	100,198				
	21,129	政友	新	松木	弘
新潟四区	18,985	政友	新	渡辺	幸太郎
	18,025	政友	新	出塚	助衛
	12,309	民政	前	佐藤	与一
	134,156				
埼玉一区	20,578	政友	旧	高橋	金治郎
	17,820	政友	前	山田	又司
	16,829	革新	前	大竹	貫一
	14,595	民政	前	原	吉郎
埼玉二区	89,217				
	(無投票)	政友	旧	鈴木	義隆
	(同)	政友	前	武田	徳三郎
	(同)	民政	前	増田	義一
埼玉三区	121,724				

	20,561	政友	前	秦	豊助
	19,507	政友	新	高橋	泰雄
	19,203	民政	新	松永	東
	18,662	政友	新	宮崎	一
埼玉二区	99,954				
	23,728	政友	前	横川	重次
	18,319	政友	旧	長島	隆二
	18,132	政友	前	一瀬	一二
	16,799	民政	前	高橋	守平
埼玉三区	84,710				
	18,819	民政	前	野中	徹也
	18,736	政友	前	出井	兵吉
	17,440	政友	新	門田	新松
群馬一区	134,782				
	27,567	政友	前	中島	知久平
	23,818	政友	前	青木	精一
	15,449	民政	前	飯塚	春太郎
	14,655	民政	旧	清水	留三郎
	13,985	政友	新	増田	金作
群馬二区	104,740				
	25,529	政友	新	畑	桃作
	21,638	政友	前	木暮	武太夫
	13,829	政友	新	篠原	義政
	13,765	民政	前	木桧	三四郎
千葉一区	122,071				
	22,192	民政	前	鈴木	隆
	22,157	民政	前	多田	満長
	20,735	政友	旧	本多	貞次郎
	18,758	政友	前	川島	正次郎
千葉二区	91,329				
	(無投票)	民政	前	鵜沢	宇八
	(同)	政友	新	鳩山	秀夫
	(同)	政友	前	今井	健彦
千葉三区	107,227				
	17,959	民政	前	土屋	清三郎
	17,812	政友	旧	竹沢	太一
	17,658	政友	新	小高	長三郎

	15,771	政友	前	森	轟昶
茨城一区	115,951				
	24,664	政友	前	内田	信也
	23,050	政友	旧	宮古	啓三郎
	15,171	政友	新	葉梨	新五郎
	12,187	民政	新	豊田	豊吉
茨城二区	74,414				
	19,586	政友	旧	石井	三郎
	19,551	政友	前	山崎	猛
	14,832	民政	新	中井川	浩
茨城三区	119,483				
	22,339	政友	前	飯村	五郎
	22,045	政友	新	堀江	正三郎
	17,403	政友	新	佐藤	洋之助
	15,267	中立	前	風見	章
栃木一区	116,293				
	22,364	政友	前	船田	中
	21,659	政友	前	森	恪
	20,892	政友	新	坪山	徳弥
	14,530	民政	前	高田	耘平
	13,031	民政	新	岡田	喜久治
栃木二区	109,018				
	20,726	政友	前	松村	光三
	19,813	政友	新	岡本	一巳
	18,267	政友	前	上野	基三
	12,045	民政	前	栗原	彦三郎
奈良全区	129,763				
	22,622	中立	新	江藤	源九郎
	16,230	政友	前	岩本	武助
	14,227	民政	前	八木	逸郎
	12,843	政友	旧	福井	甚三
	11,926	民政	前	松尾	四郎
三重一区	149,629				
	26,165	政友	前	加藤	久米四郎
	24,249	政友	旧	伊坂	秀五郎
	22,056	政友	旧	堀川	美哉
	18,464	民政	前	川崎	克

	15,084	民政	前	松田	正一
三重二区	100,896				
	19,960	政友	前	浜田	国松
	15,324	中立	前	尾崎	行雄
	15,093	政友	新	後藤	脩
	11,012	民政	前	池田	敬八
愛知一区	182,048				
	20,931	政友	前	加藤	鏑五郎
	10,573	民政	前	小山	松寿
	18,532	政友	旧	田中	善立
	16,663	民政	旧	横山	一格
	15,336	政友	前	瀬川	嘉助
愛知二区	92,651				
	20,499	政友	前	丹下	茂十郎
	15,496	民政	前	西脇	晋
	15,211	政友	新	山田	佐一
愛知三区	81,476				
	19,905	政友	前	滝	正雄
	16,995	民政	前	加藤	鯛一
	15,303	政友	新	田中	貞二
愛知四区	94,668				
	24,496	政友	新	小笠原	三九郎
	22,458	政友	前	小林	錡
愛知五区	78,814				
	15,290	政友	前	大口	喜六
	15,038	政友	新	近藤	寿市郎
	13,993	中立	新	鈴木	正吾
静岡一区	152,359				
	24,788	政友	旧	山口	忠五郎
	22,155	政友	新	宮本	雄一郎
	21,575	政友	前	深沢	豊太郎
	15,574	民政	前	海野	数馬
	15,223	民政	前	平野	光雄
静岡二区	105,285				
	20,162	政友	新	仁田	大八郎
	18,960	政友	新	春名	成章
	15,762	政友	新	勝又	春一

	13,848	民政	前	岸	衛
静岡三区	113,376				
	27,031	政友	前	太田	正孝
	21,453	政友	前	倉元	要一
	13,594	民政	前	永田	善三郎
	13,593	民政	前	井上	剛一
山梨全区	129,830				
	24,214	政友	前	田辺	七六
	20,215	政友	新	川手	甫雄
	17,261	政友	前	大崎	清作
	15,671	政友	前	竹内	友治郎
	15,622	民政	新	福田	虎亀
滋賀全区	154,756				
	23,688	政友	前	清水	銀蔵
	20,495	政友	新	服部	岩吉
	19,861	民政	前	堤	康次郎
	17,651	政友	新	仙波	久良
	16,288	民政	前	青木	亮貫
岐阜一区	81,149				
	17,263	政友	旧	匹田	鋭吉
	16,726	政友	前	大野	伴睦
	13,579	民政	新	清	寛
岐阜二区	72,823				
	19,631	政友	旧	佐竹	直太郎
	17,028	政友	新	楠	基道
	11,436	民政	前	後藤	亮一
岐阜三区	99,393				
	(無投票)	政友	前	牧野	良三
	(同)	民政	前	古屋	慶隆
	(同)	政友	前	平井	信四郎
長野一区	90,159				
	22,636	民政	前	小坂	順造
	20,542	民政	前	松本	忠雄
	19,595	政友	旧	山本	慎平
長野二区	82,533				
	20,128	政友	新	山本	莊一郎
	17,322	民政	前	小山	邦太郎

	13,139	民政	新	鷺沢	与四二
長野三区	102,894				
	18,279	政友	旧	小川	平吉
	18,108	政友	新	平野	桑四郎
	13,392	政友	新	有馬	浅雄
	12,214	民政	前	戸田	由美
長野四区	80,910				
	19,645	政友	新	高橋	保
	17,504	政友	前	植原	悦二郎
	12,250	民政	前	百瀬	渡
宮城一区	131,421				
	23,052	民政	前	内ヶ崎	作三郎
	21,261	政友	前	守屋	栄夫
	20,449	政友	前	宮沢	清作
	19,784	政友	前	菅原	伝
	17,518	政友	新	佐々木	家寿治
宮城二区	87,092				
	18,704	政友	前	星	廉平
	17,798	政友	前	大石	倫治
	13,488	民政	新	村松	久義
福島一区	89,629				
	21,764	政友		堀切	善兵衛
	19,271	政友	旧	菅野	善右衛門
	17,232	民政	前	林	平馬
福島二区	129,367				
	20,074	政友	前	八田	宗吉
	19,758	政友	新	小島	智善
	18,951	政友	前	助川	啓四郎
	15,674	民政	前	寅彦	
	12,405	中立	旧	中野	寅吉
福島三区	73,722				
	19,229	政友	新	佐藤	庄太郎
	16,296	民政	前	比佐	昌平
	15,799	政友	新	鈴木	辰三郎
岩手一区	84,680				
	22,743	政友	前	田子	一民
	17,340	政友	新	八角	三郎

	17,032	政友	前	熊谷 巖
岩手二区	112,947			
	26,750	政友	前	志賀 和多利
	23,604	政友	前	小野寺 章
	16,974	政友	前	広瀬 為久
	16,974	民政	前	高橋 寿太郎
青森一区	94,830			
	25,811	政友	前	藤井 達也
	24,554	政友	新	梅村 大
	17,078	民政	前	工藤 鉄男
青森二区	74,850			
	23,898	政友	前	工藤 十三雄
	20,955	政友	前	兼田 秀雄
	11,383	民政	前	菊地 良一
山形一区	116,550			
	28,138	政友	旧	西方 利馬
	26,012	政友	前	高橋 熊次郎
	23,751	政友	新	戸田 虎雄
	14,801	民政	前	佐藤 啓
山形二区	100,082			
	(無投票)	政友	前	熊谷 直太
	(同)	民政	前	清水 徳太郎
	(同)	政友	旧	松岡 俊三
	(同)	民政	新	佐藤 理吉
秋田一区	103,056			
	23,085	政友	新	杉本 国太郎
	22,667	政友	前	鈴木 安孝
	16,164	民政	前	田中 隆三
	15,294	民政	前	町田 忠治
秋田二区	95,505			
	26,365	政友	前	片野 重脩
	21,250	政友	新	小山田 義孝
	14,587	民政	前	猪股 謙二郎
福井全区	132,551			
	(無投票)	民政	前	漆田 敬一郎
	(同)	政友	前	猪野毛 利栄
	(同)	政友	旧	熊谷 五右衛門

	(同)	民政	新	斎藤	直橘
	(同)	政友	前	山本	条太郎
石川一区	83,853				
	23,289	政友	前	中橋	徳五郎
	20,151	民政	前	永井	柳太郎
	17,383	政友	旧	箸本	太吉
石川二区	76,690				
	(無投票)	政友	前	青山	憲三
	(同)	民政	前	桜井	兵五郎
	(同)	政友	旧	益谷	秀次
富山一区	84,687				
	22,019	政友	旧	石坂	豊一
	21,172	政友	前	高見	之通
	16,390	民政	前	野村	嘉六
富山二区	80,679				
	22,136	政友	新	島田	七郎右衛門
	21,373	政友	前	土倉	宗明
	14,616	民政	前	松村	謙三
鳥取全区	103,882				
	24,189	政友	前	豊田	収
	22,739	政友	旧	矢野	晋也
	15,447	中立	前	由谷	義治
	15,388	民政	前	山柘	儀重
島根一区	93,131				
	23,274	民政	前	桜内	幸雄
	19,098	民政	前	木村	小左衛門
	15,161	民政	前	原	夫次郎
島根二区	79,491				
	19,728	政友	前	島田	俊雄
	18,230	政友	旧	沖島	鎌三
	15,992	民政	前	俵	孫一
岡山一区	147,054				
	20,292	政友	前	岡田	忠彦
	18,446	政友	旧	横川	泰造
	17,645	政友	前	難波	清人
	16,728	政友	新	大山	斐瑳麿
	16,623	政友	前	久山	知之

岡山二区	145,515				
	26,124	政友	旧	小谷	節夫
	23,523	政友	前	犬養	毅
	19,557	民政	前	小川	郷太郎
	17,600	政友	前	星島	二郎
	15,404	政友	新	白神	邦二
広島一区	121,365				
	23,691	政友	前	岸田	正記
	17,800	政友	前	名川	侃市
	14,642	民政	前	荒川	五郎
	14,599	民政	前	藤田	若水
広島二区	108,761				
	18,303	政友	旧	渡辺	伍
	17,005	政友	前	望月	圭介
	14,368	民政	前	山道	襄一
	13,172	民政	前	田中	貢
広島三区	137,377				
	19,836	政友	前	宮沢	裕
	17,168	政友	前	米田	規矩馬
	17,023	政友	新	森田	福市
	14,466	民政	前	作田	高太郎
	13,722	民政	前	横山	金太郎
山口一区	119,594				
	(無投票)	政友	前	久原	房之助
	(同)	政友	前	保良	浅之助
	(同)	政友	前	庄	晋太郎
	(同)	民政	旧	藤井	啓一
山口二区	134,640				
	(無投票)	政友	前	松岡	洋右
	(同)	政友	旧	窪井	義道
	(同)	政友	前	西村	茂生
	(同)	民政	前	沢本	与一
	(同)	政友	前	児玉	右二
和歌山一区	98,198				
	24,305	政友	旧	木本	主一郎
	18,846	政友	新	玉置	吉之丞
	15,896	政友	前	松山	常次郎

和歌山二区	84,414				
	23,111	政友	新	世耕	弘一
	16,951	政友	前	三尾	邦三
	12,352	民政	前	小山	谷藏
徳島一区	79,436				
	17,455	政友	新	紅露	昭
	16,260	政友	旧	生田	和平
	14,360	民政	前	谷原	公
徳島二区	79,080				
	20,733	政友	前	秋田	清
	12,761	政友	新	伊藤	皆次郎
	11,218	民政	旧	真鍋	勝
香川一区	76,987				
	19,367	政友	前	宮脇	長吉
	18,921	政友	新	上原	平太郎
	13,495	民政	前	戸沢	民十郎
香川二区	80,814				
	21,143	政友	前	山下	谷次
	19,075	政友	前	三土	忠造
	14,584	民政	前	矢野	庄太郎
愛媛一区	86,617				
	20,103	政友	新	大本	貞太郎
	18,985	民政	前	武知	勇記
	18,888	政友	旧	須之内	品吉
愛媛二区	81,777				
	18,155	政友	新	森	昇三郎
	17,975	政友	前	河上	哲太
	12,929	民政	前	村上	紋四郎
愛媛三区	74,426				
	17,201	政友	新	白城	定一
	16,965	政友	前	清家	吉次郎
	14,178	政友	旧	山村	豊次郎
高知一区	80,406				
	17,499	政友	新	田村	実
	17,301	政友	前	中谷	貞頼
	14,189	中立	前	富田	幸次郎
高知二区	80,341				

	18,950	政友	前	林	讓治
	16,621	政友	新	依光	好秋
	10,630	民政	新	川淵	治馬
福岡一区	117,308				
	19,982	政友	新	原口	初太郎
	19,557	中立	前	中野	正剛
	19,278	政友	前	宮川	一貫
	13,260	政友	新	吉田	頼明
福岡二区	143,039				
	24,098	政友	新	実岡	半之助
	23,513	社民	旧	亀井	貫一郎
	22,415	政友	新	田尻	生五
	16,785	民政	新	田島	勝太郎
	16,711	民政	新	高野	喜六
福岡三区	134,927				
	17,638	政友	前	野田	俊作
	17,385	政友	旧	貝谷	真孜
	16,767	政友	前	山崎	達之輔
	15,126	政友	新	高倉	寛
	14,542	政友	前	樋口	典常
福岡四区	103,656				
	20,767	政友	前	内野	辰次郎
	19,943	政友	前	坂井	大輔
	14,379	社民	新	小池	四郎
	13,145	民政	前	勝	正憲
大分一区	123,867				
	24,411	政友	前	金光	庸夫
	18,544	政友	新	野依	秀市
	18,009	政友	新	塩月	学
	17,061	民政	前	松田	源治
大分二区	78,332				
	(無投票)	政友	新	綾部	健太郎
	(同)	政友	前	清瀬	規矩雄
	(同)	民政	前	重松	重治
佐賀一区	59,400				
	15,363	政友	旧	田中	亮一
	13,806	政友	旧	石川	又八

	12,503	民政	新	池田	秀雄
佐賀二区	78,512				
	18,554	政友	新	藤生	安太郎
	14,599	政友	前	田口	文次
	13,848	民政	前	森	峰一
熊本一区	134,144				
	22,875	政友	新	木村	正義
	22,612	政友	前	松野	鶴平
	22,057	政友	前	村田	虎之助
	18,944	中立	前	安達	謙蔵
	14,439	民政	前	大麻	唯男
熊本二区	144,325				
	27,032	政友	旧	上塚	司
	26,986	政友	新	三善	信房
	26,686	政友	前	中野	猛雄
	15,621	民政	新	伊豆	富人
	14,403	民政	前	深水	清
宮崎全区	156,226				
	17,209	政友	前	佐藤	重遠
	16,911	政友	新	平島	敏夫
	14,876	政友	新	渡辺	与七
	12,911	政友	新	田尻	藤四郎
	11,354	政友	旧	水久保	甚作
鹿児島一区	121,782				
	18,431	政友	旧	原	耕
	17,913	政友	前	床次	竹二郎
	16,417	政友	前	蔵園	三四郎
	14,216	政友	前	井上	知治
	13,375	政友	前	中村	嘉寿
鹿児島二区	110,090				
	21,531	政友	前	東郷	実
	16,874	政友	前	崎川	武夫
	16,732	政友	新	天辰	正守
	14,829	政友	前	寺田	市正
鹿児島三区	73,994				
	15,900	政友	新	金井	正夫
	15,781	政友	前	津崎	尚武

	11,339	政友	前	永田	良吉
沖縄全区	139,557				
	16,951	政友	新	金城	紀光
	13,917	政友	旧	花城	永渡
	12,609	政友	前	崎山	嗣朝
	9,766	政友	旧	竹下	文隆
	9,162	民政	前	伊礼	肇
北海道一区	116,073				
	20,136	政友	新	寿原	英太郎
	18,030	民政	前	山本	厚三
	16,208	政友	旧	丸山	浪弥
	13,589	政友	旧	岡田	伊太郎
北海道二区	90,919				
	19,970	政友	前	東	武
	19,538	政友	旧	林	路一
	15,628	政友	前	田中	喜代松
	12,658	民政	前	坂東	幸太郎
北海道三区	82,584				
	18,313	政友	前	佐々木	平次郎
	17,221	政友	新	林	儀作
	13,227	民政	新	大島	寅吉
北海道四区	110,357				
	18,166	政友	前	板谷	順助
	13,267	政友	前	松実	喜代太
	12,541	民政	新	山本	市英
	11,696	中立	新	松尾	孝之
	10,645	民政	前	手代木	隆吉
北海道五区	110,051				
	19,044	政友	前	三井	徳宝
	18,551	政友	新	尾崎	天風
	18,261	政友	前	木下	成太郎
	11,807	民政	前	小池	仁郎

なお前表中、千葉三区では森轟昶が当選を辞退したため、次点の岩瀬亮（政友・新）が繰上げ当選者となっている。

総選挙後の特別議会は通常議会の召集手続によるため、早くても投票日の2ヶ月後でなければ開くことができず、憲法も5ヶ月以内に召集すればよいと規定していた（「第六一回帝国議会貴族院解説」参照）。犬養内閣も当初は、選挙スローガンとした産業5ヶ年計画も盛り込んだ実行予算を編成してから特別議会を召集するつもりでいた（昭和7年度予算案は解散で未成立のため、前年度予算施行）。しかし、満州事変費・上海事変費支出についての枢密院側の意向により、3月中に臨時議会を召集しなければならなくなってきた。

すなわち、これまで事変費の支出は枢密院の審査を経て緊急勅令による財政処分（議会の事後承認が必要）として行われてきたが、総選挙終了後も特別議会召集までこの方式を続けようとする内閣側の態度に枢密院が反発、選挙が終わった以上、3月中にも臨時議会を開くべきだと強く主張した。内閣側も結局枢密院の意向に従うこととし、召集日3月18日、会期5日として第61回議会を召集することとなった。従ってこの議会は、総選挙後最初の議会であるが、特別議会としてではなく臨時議会として召集されたものであった。

この議会における議長・副議長、全院・常任委員長、政府側委員、議員の党派別所属は次の通りであった。なお、大正14年第50回議会の決議により、以後議長・副議長は党籍を離脱していたが、この議会で正・副議長に当選した秋田清・植原悦二郎はともに党籍を離れず、後述するように、野党の攻撃に対してもこの態度を押し通して行った。

議長	秋田 清(政友会・徳島)
副議長	植原 悦二郎(政友会・長野)

全院委員長	広瀬 為久(政友会・岩手)
-------	---------------

常任委員長	予算委員長	山崎 達之輔(政友会・福岡)
	決算委員長	川口 義久(政友会・神奈川)
	請願委員長	清水 銀蔵(政友会・滋賀)
	懲罰委員長	津崎 尚武(政友会・鹿児島)

国務大臣	内閣総理大臣	犬養 毅
	外務大臣	芳沢 謙吉
	内務大臣(兼任)	犬養 毅
	大蔵大臣	高橋 是清
	陸軍大臣	荒木 貞夫

海軍大臣	大角 岑生
司法大臣	鈴木 喜三郎
文部大臣	鳩山 一郎
農林大臣	山本 悌二郎
商工大臣	前田 米蔵
逓信大臣	三土 忠造
鉄道大臣	床次 竹二郎
拓務大臣	秦 豊助

政府委員（3・18発令）

内閣書記官長	森 恪
法制局長官	島田 俊雄
法制局参事官	黒崎 定三
同	金森 徳次郎
外務政務次官	岩城 隆徳
外務参与官	高橋 熊次郎
外務書記官	松宮 順
内務政務次官	松野 鶴平
内務参与官	藤井 達也
大蔵政務次官	堀切 善兵衛
大蔵参与官	太田 正孝
大蔵省主計局長	藤井 真信
大蔵省理財局長	富田 勇太郎
大蔵書記官	川越 丈雄
陸軍政務次官	若宮 貞夫
陸軍参与官	土岐 章
陸軍主計監	小野寺 長治郎
陸軍少将	山岡 重厚
陸軍一等主計正	大内 球三郎
海軍政務次官	堀田 正恒
海軍参与官	西村 茂生
海軍主計中将	加藤 亮一
海軍少将	豊田 貞次郎
海軍主計大佐	荒木 彦弼
司法政務次官	熊谷 直太
司法参与官	名川 侃一
文部政務次官	安藤 正純
文部参与官	山下 谷次

農林政務次官	砂田	重政
農林参与官	今井	健彦
商工政務次官	中島	知久平
商工参与官	加藤	鏝五郎
逓信政務次官	内田	信也
逓信参与官	坂井	大輔
逓信省経理局長	富安	謙次
鉄道政務次官	若尾	璋八
鉄道参与官	野田	俊作
拓務政務次官	加藤	久米四郎
拓務参与官	牧野	賤男
拓務書記官	杉田	芳郎
関東庁財務部長	西山	左内

政府委員追加（会期中発令）

外務省通商局長	武富	敏彦
内務省警保局長	森岡	二郎
大蔵省銀行局長	大久保	偵次
鉄道省経理局長	工藤	義男

党派別所属議員氏名

召集日各会派所属議員数
(昭和7年3月18日)

立憲政友会	303名
立憲民政党	144名
第一控室	18名
無所属	1名
計	466名

立憲政友会(303名)

東京	立川	太郎
同	本田	義成
同	犬養	健
同	鳩山	一郎
同	安藤	正純
同	伊藤	仁太郎
同	磯辺	尚
同	国枝	捨次郎
同	中野	勇治郎

同	三上	英雄
同	牧野	賤男
同	前田	米蔵
同	中島	守利
同	津雲	国利
同	坂本	一角
京都	鈴木	吉之助
同	鷺野	米太郎
同	中野	種一郎
同	磯辺	清吉
同	長田	桃蔵
同	芦田	均
同	水島	彦一郎
大阪	板野	友造
同	山本	芳治
同	沼田	嘉一郎
同	上田	孝吉
同	青田	勝晴
同	森田	正義
同	喜多	孝治
同	岩崎	幸治郎
同	山口	義一
同	井阪	豊光
神奈川	野方	次郎
同	川口	義久
同	鈴木	喜三郎
同	胎中	楠右衛門
同	鈴木	英雄
同	河野	一郎
兵庫	砂田	重政
同	中井	一夫
同	蔭山	貞吉
同	立川	平
同	小林	絹治
同	多木	久米次郎
同	青木	雷三郎
同	原	惣兵衛

同	土井 権大
同	若宮 貞夫
同	畑 七右衛門
長崎	西岡 竹次郎
同	向井 倭雄
同	志波 安一郎
同	森 肇
同	佐保 畢雄
新潟	山本 悌二郎
同	田辺 熊一
同	松木 弘
同	渡辺 幸太郎
同	出塚 助衛
同	加藤 知正
同	高橋 金治郎
同	山田 又司
同	鈴木 義隆
同	武田 徳三郎
埼玉	秦 豊助
同	高橋 泰雄
同	宮崎 一
同	横川 重次
同	長島 隆二
同	一瀬 一二
同	出井 兵吉
同	門田 新松
群馬	中島 知久平
同	青木 精一
同	増田 金作
同	畑 桃作
同	木暮 武太夫
同	篠原 義政
千葉	鈴木 隆
同	本多 貞次郎
同	川島 正次郎
同	鳩山 秀夫
同	今井 健彦

同	竹沢 太一
同	小高 長三郎
同	岩瀬 亮
茨城	内田 信也
同	宮古 啓三郎
同	葉梨 新五郎
同	石井 三郎
同	山崎 猛
同	飯村 五郎
同	堀江 正三郎
同	佐藤 洋之助
栃木	船田 中
同	森 恪
同	坪山 徳弥
同	松村 光三
同	岡本 一巳
同	上野 基三
奈良	江藤 源九郎
同	岩本 武助
同	福井 甚三
三重	加藤 久米四郎
同	伊坂 秀五郎
同	堀川 美哉
同	浜田 国松
同	後藤 脩
愛知	加藤 鏑五郎
同	田中 善立
同	瀬川 嘉助
同	丹下 茂十郎
同	山田 佐一
同	滝 正雄
同	田中 貞二
同	小笠原 三九郎
同	小林 錡
同	大口 喜六
同	近藤 寿市郎
静岡	山口 忠五郎

同	宮本 雄一郎
同	深沢 豊太郎
同	仁田 大八郎
同	春名 成章
同	勝又 春一
同	太田 正孝
同	倉元 要一
山梨	田辺 七六
同	川手 甫雄
同	大崎 清作
同	竹内 友治郎
滋賀	清水 銀蔵
同	服部 岩吉
同	仙波 久良
岐阜	匹田 鋭吉
同	大野 伴睦
同	佐竹 直太郎
同	楠 基道
同	牧野 良三
同	平井 信四郎
長野	山本 慎平
同	山本 莊一郎
同	小川 平吉
同	平野 桑四郎
同	有馬 浅雄
同	高橋 保
同	植原 悦二郎
宮城	守屋 栄夫
同	宮沢 清作
同	菅原 伝
同	佐々木 家寿治
同	星 廉平
同	大石 倫治
福島	堀切 善兵衛
同	菅野 善右衛門
同	八田 宗吉
同	小島 智善

同	助川 啓四郎
同	佐藤 庄太郎
同	鈴木 辰三郎
岩手	田子 一民
同	八角 三郎
同	熊谷 巖
同	志賀 和多利
同	小野寺 章
同	広瀬 為久
青森	藤井 達也
同	梅村 大
同	工藤 十三雄
同	兼田 秀雄
山形	西方 利馬
同	高橋 熊次郎
同	戸田 虎雄
同	熊谷 直太
同	松岡 俊三
秋田	杉本 国太郎
同	鈴木 安孝
同	片野 重脩
同	小山田 義孝
福井	熊谷 五右衛門
同	山本 条太郎
同	猪野毛 利栄
石川	中橋 徳五郎
同	箸本 太吉
同	青山 憲三
同	益谷 秀次
富山	石坂 豊一
同	高見 之通
同	島田 七郎右衛門
同	土倉 宗明
鳥取	豊田 収
同	矢野 晋也
島根	島田 俊雄
同	沖島 鎌三

岡山	岡田 忠彦
同	横山 泰造
同	難波 清人
同	大山 斐瑳磨
同	久山 知之
同	小谷 節夫
同	犬養 毅
同	星島 二郎
同	白神 邦二
広島	岸田 正記
同	名川 侃市
同	渡辺 伍
同	望月 圭介
同	宮沢 裕
同	米田 規矩馬
同	森田 福市
山口	久原 房之助
同	保良 浅之助
同	庄 晋太郎
同	松岡 洋右
同	窪井 義道
同	西村 茂生
同	児玉 右二
和歌山	木本 主一郎
同	玉置 吉之丞
同	松山 常次郎
同	世耕 弘一
同	三尾 邦三
徳島	紅露 昭
同	生田 和平
同	秋田 清
同	伊藤 皆次郎
香川	宮脇 長吉
同	上原 平太郎
同	山下 谷次
同	三土 忠造
愛媛	大本 貞太郎

同	須之内 品吉
同	森 昇三郎
同	河上 哲太
同	白城 定一
同	清家 吉次郎
同	山村 豊次郎
高知	田村 実
同	中谷 貞頼
同	林 譲治
同	依光 好秋
福岡	原口 初太郎
同	宮川 一貫
同	吉田 靱明
同	実岡 半之助
同	田尻 生五
同	野田 俊作
同	貝谷 真孜
同	山崎 達之輔
同	高倉 寛
同	樋口 典常
同	内野 辰次郎
同	坂井 大輔
大分	金光 庸夫
同	野依 秀市
同	塩月 学
同	綾部 健太郎
同	清瀬 規矩雄
佐賀	田中 亮一
同	石川 又八
同	藤生 安太郎
同	田口 文次
熊本	木村 正義
同	松野 鶴平
同	村田 虎之助
同	上塚 司
同	三善 信房
同	中野 猛雄

宮崎	佐藤 重遠
同	平島 敏夫
同	渡辺 与七
同	田尻 藤四郎
同	水久保 甚作
鹿児島	原 耕
同	床次 竹二郎
同	蔵園 三四郎
同	井上 知治
同	中村 嘉寿
同	東郷 実
同	崎山 武夫
同	天辰 正守
同	寺田 市正
同	金井 正夫
同	津崎 尚武
同	永田 良吉
沖縄	金城 紀光
同	花城 永渡
同	崎山 嗣朝
同	竹下 文隆
北海道	寿原 英太郎
同	丸山 浪弥
同	岡田 伊太郎
同	東 武
同	林 路一
同	田中 喜代松
同	佐々木 平次郎
同	林 儀作
同	板谷 順助
同	松実 喜代太
同	松尾 孝之
同	三井 徳宝
同	尾崎 天風
同	木下 成太郎

立憲民政党(144名)

東京	高橋 義次
----	-------

同	三木 武吉
同	大神田 軍治
同	駒井 重次
同	中島 弥団次
同	頼母木 桂吉
同	柳田 宗一郎
同	鈴木 富士弥
同	高木 正年
同	斯波 貞吉
同	中村 継男
同	佐藤 正
同	八並 武治
京都	中村 三之丞
同	川橋 豊次郎
同	田中 祐四郎
大阪	一松 定吉
同	枅谷 寅吉
同	竹田 儀一
同	内藤 正剛
同	広瀬 徳蔵
同	中山 福蔵
同	本田 弥市郎
同	吉川 吉郎兵衛
同	勝田 永吉
同	松田 竹千代
神奈川	戸井 嘉作
同	三宅 磐
同	小泉 又次郎
同	岩切 重雄
同	平川 松太郎
兵庫	野田 文一郎
同	浜野 徹太郎
同	中 亥歳男
同	前田 房之助
同	原 淳一郎
同	田中 武雄
同	斎藤 隆夫

長崎	中村 不二男
同	中川 観秀
同	牧山 耕蔵
同	中田 正輔
新潟	山田 助作
同	佐藤 与一
同	原 吉郎
同	増田 義一
埼玉	松永 東
同	高橋 守平
同	野中 徹也
群馬	飯塚 春太郎
同	清水 留三郎
同	木桧 三四郎
千葉	多田 満長
同	鵜沢 宇八
同	土屋 清三郎
茨城	豊田 豊吉
同	中井川 浩
栃木	高田 耘平
同	岡田 喜久治
同	栗原 彦三郎
奈良	八木 逸郎
同	松尾 四郎
三重	川崎 克
同	松田 正一
同	池田 敬八
愛知	小山 松寿
同	横山 一格
同	西脇 晋
同	加藤 鯛一
同	武富 濟
静岡	海野 数馬
同	平野 光雄
同	岸 衛
同	永田 善三郎
同	井上 剛一

山梨	福田 虎亀
滋賀	堤 康次郎
同	青木 亮貫
岐阜	清 寛
同	古屋 慶隆
長野	小坂 順造
同	松本 忠雄
同	小山 邦太郎
同	鷺沢 与四二
同	戸田 由美
同	百瀬 渡
宮城	内ヶ崎 作三郎
同	村松 久義
福島	林 平馬
同	鈴木 虎彦
同	比佐 昌平
岩手	高橋 寿太郎
青森	工藤 鉄男
同	菊池 良一
山形	佐藤 啓
同	佐藤 理吉
同	清水 徳太郎
秋田	田中 隆三
同	町田 忠治
同	猪股 謙二郎
福井	斎藤 直橘
同	添田 敬一郎
石川	永井 柳太郎
同	桜井 兵五郎
富山	野村 嘉六
同	松村 謙三
鳥取	山柊 儀重
島根	桜内 幸雄
同	木村 小左衛門
同	原 夫次郎
同	俵 孫一
岡山	小川 郷太郎

広島	荒川 五郎
同	藤田 若水
同	山道 襄一
同	田中 貢
同	作田 高太郎
同	横山 金太郎
山口	藤井 啓一
同	沢本 与一
和歌山	小山 谷蔵
徳島	谷原 公
同	真鍋 勝
香川	戸沢 民十郎
同	矢野 庄太郎
愛媛	武知 勇記
同	村上 紋四郎
高知	川淵 治馬
福岡	田島 勝太郎
同	高野 喜六
同	勝 正憲
大分	松田 源治
同	重松 重治
佐賀	池田 秀雄
同	森 峰一
熊本	大麻 唯男
同	伊豆 富人
同	深水 清
沖縄	伊礼 肇
北海道	山本 厚三
同	坂東 幸太郎
同	大島 寅吉
同	手代木 隆吉
同	小池 仁郎

第一控室(18名)

〔社会民衆党〕	東京	安部 磯雄
	福岡	亀井 貫一郎
	同	小池 四郎

〔全国労農大衆党〕	東京	松谷 与二郎
	大阪	杉山 元治郎
〔革新党〕	兵庫	清瀬 一郎
	新潟	大竹 貫一
〔無所属〕	東京	朴 春琴
	京都	福田 関次郎
	茨城	風見 章
	三重	尾崎 行雄
	愛知	鈴木 正吾
	福島	中野 寅吉
	鳥取	由谷 義治
	高知	富田 幸次郎
	福岡	中野 正剛
	熊本	安達 謙蔵
	北海道	山本 市英

無所属(1名) 岐阜 後藤 亮一

内閣改造問題

この議会開会を前にして、政府側では中橋内相が病気のため登院出来そうにもない、との問題がおこってきた。政友会としては、第59回議会で浜口首相の不登院を攻撃してきた手前、内相欠席のまま議会にのぞむことは具合の悪いことであつたが、そのうえ野党や貴族院には桜田門事件（「第六〇回帝国議会貴族院解説」）の責任をとって内相は辞職すべきだとの要求が高まっており、政府・与党側もこの問題の処理に苦慮しなければならなくなつた。桜田門事件では警備責任者として警視總監を免職するなどの処置がとられたが、閣僚、とくに内相が責任をとってやめないのは不都合だというのが野党側の言い分であつた。政府側では事件の責任問題は解決済みという態度であつたが、内相の不登院とからめて問題をむし返されるのは避けたいという空気が強く、そこから内相更迭を中心とした内閣改造問題がもちあがつてきた。

はじめ中橋内相は辞職の意志なしと伝えられ、議会開会がせまるにつれて果して円満な更迭が実現できるかどうか話題となつていたが、3月15日私邸を訪れた犬養首相が、政府の直面している情勢を述べて婉曲に決意を促すと、中橋はすこぶるあっさりとして辞意を表明し、内閣改造もスムーズに実現するかにみえた。16日付けの新聞は、鈴木喜三郎法相が内相に、貴族院から川村竹治が法相に就任することとなり「けふ親任式挙行」（東

朝、3・16)と報じた。しかし実際に行われた親任式は、犬養首相を兼任内相に任命するというものであり、内相後任人事をめぐって政友会内部の派閥対立が激化したことを示すものであった。すでに鈴木の内相就任は政友会内の反鈴木派を刺激し、党内対立を深刻化することになると予想されていたが、反鈴木派の中心人物の1人で幹事長の地位を占めていた久原房之助は、この人事の実現を阻止するため、すばやく行動を起こしていた。15日深夜、16日早朝と再度にわたって犬養首相を訪問した久原は、鈴木の内相就任に異議を唱えた。このために首相もやむなく内相を兼任して臨時議会を切り抜け、党内の情勢をみて議会後に改造を行う方針に切りかえたのであった。

鈴木はすでに田中内閣の内相として最初の普選を指揮し、選挙干渉を非難されて辞職したという経歴の持主であったが、政友会内部では鳩山一郎・森恪などを中心とした鈴木派と呼ばれる大勢力を築いており、今回の総選挙では貴族院議員を辞任し、神奈川2区から立候補、高点当選を果たしていた。この貴族院から衆議院へのくがえは、明らかに政友会総裁の地位をねらったものであり、そのためには、地方に勢力を伸ばすのに好都合な内相の椅子にすわることを強く望んでいたものであった。党内に独自の勢力を持たない犬養としては、鈴木希望を無視するわけにはゆかなかったが、新興勢力として力を伸ばしてきている久原としては、鈴木に内相の椅子を与えることが、後継総裁の地位が予約されたかの如き感を与えることを恐れたのであった。従って後任内相をめぐる内紛は、総裁争奪の前哨戦の意味を持つものにほかならなかった。

この久原の行動は鈴木系を激怒させ、書記官長・森恪は、首相の裁断がこうしたことで阻止されるようでは政務の円満な運用は望めないとして辞意をもらす有様であった。しかし犬養としても久原の言い分をとり入れるつもりはなく、一時久原の面目を立てたうえで既定の方針を実現する考えであったとみられる。また党内で鈴木派と対抗していた床次派、旧政友系（岡崎・望月・三土ら）も久原に同調せず、孤立の形勢となった久原は、議会開会中の3月23日夜、ひそかに鈴木と会談して鈴木攻撃の鋒をおさめた。第61回議会の閉院式が行われた25日午後、最初の予定通り、内相に鈴木喜三郎、法相に川村竹治が任命され、内閣改造問題は幕となった。しかしここにあらわれた派閥対立は、以後もくすぶりつづけることになり、政友会の絶対多数の威力を弱める1つの要因となってゆくのであった。

衆議院の状況

第61回議会に提出された議案は、満州事変・上海事変関係の経費に関するものが主であり（緊急勅令による財政処分事後承諾案・追加予算案・事変関係経費支弁のための公債発行法案など）、これらの事変議案については野党側も全面的に賛成していた。開会冒頭に貴族院の場合と同じく「陸海軍将兵二対スル感謝決議案」が提出され、全会一致で可決されたことは、もはや議場には満州事変批判の空気が全くみられなくなっていることを示していた。

事変関係以外では、金輸出再禁止の緊急勅令事後承諾案が出されたが、民政党はこのかつての同党の中心的政策を否定した案件に対しては論争をいどんだ。まず堤康次郎は、再禁止を見越したドル買いによる不当な利得を得たものには非常利得税を課すべきだと主張し、また小川郷太郎は再禁止の結果、物価は上がったが賃金や俸給はもとのままではないか、と追求したが（速記録第2号参照）、金本位制再建がどうしても必要だとする観点は強調されておらず、迫力に欠けていた。この議案も絶対多数により問題なく可決された。

民政党はこの議会では桜田門事件についての責任問題を取りあげ、貴族院の野党派と連結して政府を追及する方針を立てており、斉藤隆夫を立てて緊急質問を行ったが（速記録第2号参照）、中橋内相も辞職していてさしたる効果は期待できなかった。そこで正・副議長が党籍離脱を拒否するという予想しない出来事にとびついて行った。すなわち、まず工藤鉄男を立てて、全院委員長選挙に先立って議事進行の発言という形をとって、議長・副議長は本院の決議先例を重んずる意志はないのかと追及した。これに対して秋田清議長が、かつての大正14年の決議は希望決議にすぎず、また議長が厳正公平に職責を尽くすか否かは党派への所属とは関係ないとつっぱねると、会期最終日の3月24日、「現任議長及ビ副議長ハ院議ヲ尊重スベシ」との決議案を提出したが、多数で否決されることは眼にみえていた。

その他の問題としては、民政党の武富済が「帝都治安ニ関スル緊急質問」、社民党の亀井貫一郎が「議会否認思想ニ依ル直接行動ノ傾向ニ対スル緊急質問」を行い、また清瀬一郎らから「議会否認ノ風潮ニ関スル質問主意書」が提出されているが、これらの動きは、ファッショ勢力拡大についての不安感が議会のなかでも強く感ぜられるようになったことを示すものであった。政府から提出された満州事変費についての昭和7年度追加予算案は、4、5月分のみであり、従って5月には次の臨時議会召集が予定されていたわけであるが、そのわずか2ヶ月の間に、5・15事件によって政治の様相は一変することになるのであった。

（古屋哲夫）

